

# 市勢・消防情勢

## 津島市の市勢

本市は愛知県の西部に位置し、西方には、木曾、長良、揖斐の三大河川があり、多度養老山脈を背景に北部はやや高くなっているが、南部は海拔0メートル以下の地形で、地域一帯は一大水郷をなしている。

明治4年7月廃藩置県の結果、愛知県66区第12小区に属し、22年に向島村・中地村の全部と諸桑・宇治・中一色村の一部を併せて津島町制を布き、大正14年に佐織村のうち古川を合併、毛織物の町として発展した。

昭和に入ると、10年7月には都市計画法を実施、22年3月には市制を施行し、30年1月に神守村を合併、次いで31年4月永和村の一部とも合併した。繊維工業一辺倒の街も時代の流れと共に企業の合理化、近代化が進み機械工業、金属製品工業、木工業、近代精密工業の進出と農業構造改善事業等による発展をはかり、現在は面積25.09km<sup>2</sup>、人口6万人をかぞえ海部地方の中心をなしている。

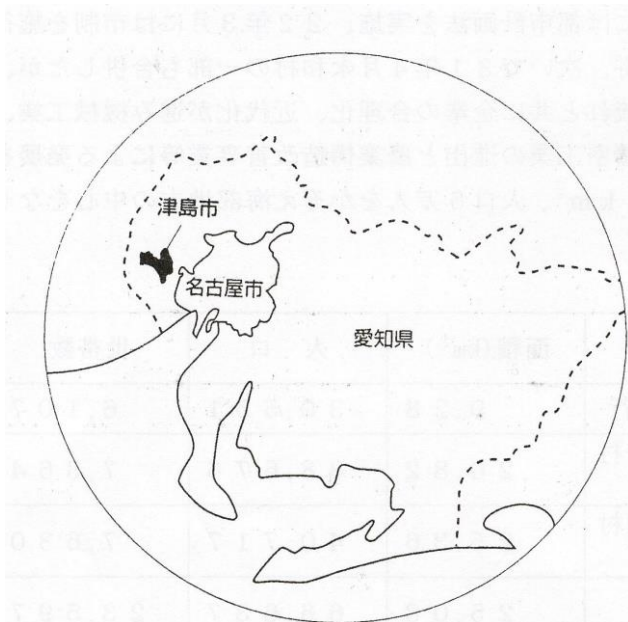
年別	区分	推移状況	面積 (km <sup>2</sup> )	人口 (人)	世帯数 (世帯)
昭和22年3月		市制施行	9.28	30,551	6,107
昭和30年1月		海部郡神守村合併	20.82	38,676	7,364
昭和31年4月		海部郡永和村一部合併	25.36	40,717	7,630
令和5年 4月1日		現在	25.09	60,335	27,127

## 消防情勢

本市の消防現勢は、昭和24年4月消防本部の設置以来、警防面の常備化、救急業務の樹立、予防指導の普及徹底、防災業務等、一体化した有機的な活動をもって、市民生活様式の合理化・近代化に伴う災害、又危険物等の増大に伴う災害を防除し、市民の生活安定を図り、かつ生命・身体・財産を保護する責務を担っている。

## 津島市の位置

東経 1 3 6 度 4 4 分 2 9 秒  
北緯 3 5 度 1 0 分 3 8 秒  
東西 7.3 0 k m  
南北 7.2 5 k m  
面積 2 5.0 9 k m<sup>2</sup>



# 消 防 の あ ゆ み

- 明治17年 7月 海東郡津島村に当時の消防夫編成規則に基づき、部落単位8組104名をもって消防組が結成される。
- 明治24年 3月 部落単位による消防組自然解消に伴ない、津島町水火消防組規則に基づき1組33名をもって構成される。
- 明治27年 2月 勅令第15号により消防組規則が發布され、津島町立消防組を設置し、2組80名の構成となる。
- 大正11年12月 告示第565号をもって改組、7部293名構成となる。
- 昭和 9年 6月 定員13名の特設部を増設
- 昭和 9年 8月 告示第893号に基づき、精鋭主義により定員改正、7部特設部168名となる。
- 昭和12年 9月 告示第1405号をもって特設部を南北に二分し、定員171名の編成となる。
- 昭和14年 4月 勅令による警防団令の公布に基づき、津島町警防団に改組
- 昭和22年 6月 勅令による警防団令に基づき、従来の警防団を廃止、津島市消防団となり1団4分団編成として自治消防発足
- 昭和24年 4月 消防組織法に基づき、津島市役所内に消防本部を設置
- 昭和24年11月 消防本部に常備吏員7名、手引ポンプ1台を配置発足する。
- 昭和24年12月 ニッサン1, 500リットル積載水槽付消防車を購入、消防本部に配置
- 昭和25年 2月 消防団条例の一部改正により、分団を団に昇格、4団編成となる。
- 昭和26年 1月 消防本部に次長を増員
- 昭和26年 4月 消防吏員8名を増員、吏員16名、事務職員1名となる。
- 昭和26年 8月 消防庁舎を新設、署業務を開始
- 昭和27年 2月 ニッサン消防車を購入、署に配置
- 昭和28年 7月 署に望楼(24m)新設
- 昭和29年10月 消防団条例の一部改正により、1団4分団となり団長以下142名編成となる。
- 昭和30年 1月 海部郡神守村を合併、津島、神守の2団編成定員443名となる。
- 昭和30年 3月 神守村消防団を廃止、1団7分団編成とし、トヨタ消防車を購入、神守分団に配置
- 昭和31年 4月 海部郡永和村の一部を合併、条例改正により、1団8分団282名編成となる。
- 昭和33年 3月 トヨタ消防車を購入、西分団に配置(新車配置により高台寺分団に配置替)
- 昭和34年 3月 トヨタ消防車を購入、東分団に配置(新車配置により蛭間分団に配置替)
- 昭和36年 3月 ニッサン消防車を購入、署に配置(新車配置により北分団に配置替、北分団より神島田分団に配置替)
- 昭和37年 3月 ニッサン2, 000リットル積載水槽付消防車を購入、署に配置(昭和24年12月購入車を自衛消防隊横井製絨所に払下げ)
- 昭和37年11月 津島ライオンズクラブより、ニッサンV30B型救急車の寄贈を受け、署に配置
- 昭和37年12月 ニッサン消防車を購入、署に配置(新車配置により南分団に配置替)
- 昭和39年 2月 ニッサン消防車を購入、署に配置(新車配置により高台寺分団に配置替)
- 昭和39年 3月 消防専用中短波無線電話機(SSB)基地局1、移動局2を購入設置、運用を開始

- 昭和39年11月 日本損害保険協会よりニッサンFR40型消防車の寄贈を受け署に配置  
(新車配置により蛭間分団に配置替)
- 昭和40年 4月 消防団条例を改正、定員283名となる。  
ニッサン消防車を購入、神島田分団に配置(更新)
- 昭和41年11月 ニッサン消防車を購入、署に配置
- 昭和42年11月 ニッサン消防車を購入、北分団に配置(更新)
- 昭和43年 1月 消防相互応援協定を隣接四町村(佐織町、佐屋町、立田村、八開村)  
と締結
- 昭和43年 2月 救急業務に関する応援協定を隣接四町村(佐織町、佐屋町、立田村、  
八開村)と締結
- 昭和44年10月 ニッサン消防車を購入、神守分団に配置(更新)
- 昭和45年10月 新消防庁舎建設に着手
- 昭和46年 3月 新消防庁舎竣工(3月26日 埋田町2丁目70の1に移転)  
宇佐美鋳油店よりトヨタカラー46年式KE26V-F型指令車の寄贈を  
受け署に配置
- 昭和46年 4月 消防本部等の組織に関する規則を改正、定員50名となる。
- 昭和46年10月 消防専用中短波無線電話を超短波(F3)に変更し、移動局3基を増設  
(基地局1、移動局5)
- 昭和46年11月 屈折はしご付消防ポンプ自動車(森田式16m)を購入、署に配置
- 昭和46年12月 ニッサン消防車を購入、西分団に配置(更新)
- 昭和47年 1月 ニッサン3B型救急車を購入、署に配置(更新)
- 昭和47年10月 ニッサン消防車を購入、東分団に配置(更新)  
ニッサンF780型化学車を購入、署に配置
- 昭和47年12月 高台寺分団車庫(詰め所)竣工(高台寺町)
- 昭和48年 3月 トヨタ2B型救急車を購入、署に配置
- 昭和48年 9月 ニッサンFHN60型消防車を購入、南分団に配置(更新)
- 昭和49年 2月 救急相互応援協定を海部西部消防組合と締結
- 昭和49年 7月 シバウラ小型動力ポンプ(B-3級)を購入、署に配置
- 昭和50年10月 東名阪自動車道における消防相互応援協定を通過市町村、消防組合  
管理者(津島市、蟹江町、海部東部消防組合、海部南部消防組合、海部  
西部消防組合)と締結
- 昭和51年11月 海部、津島地区消防相互応援協定を市町消防組合管理者(津島市、  
蟹江町、海部東部消防組合、海部南部消防組合、海部西部消防組合)  
と締結  
日本損害保険協会よりニッサンCM90E型A1級1、600リットル水槽付  
消防車の寄贈を受け署に配置(更新)  
ニッサンFHN60型消防車を購入、高台寺分団に配置(更新)
- 昭和52年12月 ニッサンFHN60型消防車を購入、署に配置(更新)
- 昭和53年 5月 三菱J54型ジープを購入、署に配置
- 昭和53年 6月 危険物安全協会より三菱H改-A105V型査察車の寄贈を受け署に配置
- 昭和54年 2月 三菱HT-121改型積載車を購入、署に配置  
日本損害保険協会よりニッサン3B型救急車の寄贈を受け署に配置  
(更新)
- 昭和54年10月 東名阪自動車道の名古屋市内延長に伴い、名古屋市が消防相互応援  
協定に参加  
北分団車庫(詰め所)竣工(片岡町)
- 昭和54年12月 ニッサンJ-FH61型消防車を購入、署に配置(更新)

昭和55年 3月 消防本部等の組織に関する規則を改正、定員53名となる。  
 昭和55年12月 ニッサンJ-FG160型消防車を購入、蛭間分団に配置(更新)  
 津島ロータリークラブより、トヨタJ-TE73V改型指令車兼広報車の寄贈を受け署に配置(更新)  
 昭和56年11月 ニッサンJ-FG160型消防車を購入、神島田分団に配置(更新)  
 昭和57年 3月 南分団車庫(詰め所)竣工(常盤町に移転)  
 昭和57年11月 ニッサンJ-FG160型消防車を購入、北分団に配置(更新)  
 昭和58年 2月 愛知県下高速道路における消防相互応援協定を締結  
 昭和58年11月 日本自動車工業会よりニッサン2B型救急車の寄贈を受け署に配置(更新)  
 昭和59年10月 ニッサンM-FG161型消防車を購入、神守分団に配置(更新)  
 昭和59年12月 東分団車庫(詰め所)竣工(古川町に移転)  
 昭和60年 9月 ヒノP-FW274BA改型38m級梯子車購入、署に配置  
 昭和61年12月 ニッサンM-FG161型消防車を購入、西分団に配置(更新)  
 昭和62年 1月 蛭間分団車庫(詰め所)竣工(蛭間町)  
 昭和62年 2月 ミタニ建設よりイスズファーゴ62年式N-WFS53FVH改型救急車の寄贈を受け署に配置(更新)  
 昭和62年10月 ニッサンM-FG161型消防車を購入、東分団に配置(更新)  
 昭和63年 2月 神島田分団車庫(詰め所)竣工(中一色町)  
 平成 元年 1月 ヒノP-GD172BA改型救助工作車を購入、署に配置  
 平成 2年 3月 ニッサンT-FGY60改型消防車を購入、南分団に配置(更新)  
 平成 2年 4月 愛知県下広域消防相互応援協定を締結  
 平成 2年12月 ヒノU-FF3HKAA改型15m級屈折梯子車を購入、署に配置(更新)  
 平成 3年 8月 日本損害保険協会よりイスズU-FRR32DBV改型A1級1,500リットル水槽付消防車の寄贈を受け署に配置(更新)  
 平成 4年 1月 三菱U-FE337B改型消防車を購入、署に配置(更新)  
 平成 4年10月 ヒノU-GD3HGAA改型化学車を購入、署に配置(更新)  
 平成 5年 3月 職員定数条例の改正により、消防本部及び消防署の職員定数65名となる。  
 平成 5年 4月 隔日勤務者の3部制を実施  
 平成 5年 7月 新消防庁舎増改築に着工  
 平成 6年 2月 ニッサンZ-FGY60改型消防車を購入、高台寺分団に配置(更新)  
 平成 6年 8月 海部、津島救急業務連絡協議会発足  
 平成 6年11月 津島ライオンズクラブよりマツダT-SS58V改型指揮車の寄贈を受け署に配置  
 平成 6年12月 新消防庁舎増改築工事完成(平成5年～平成6年継続事業)  
 宇佐美鋳油よりトヨタR-EE103V改型広報車の寄贈を受け署に配置(更新)  
 平成 7年 3月 三菱U-FE638EV改型高規格救急車を購入、署に配置(更新)  
 平成 7年 5月 危険物安全協会よりスズキE-CT21S改型査察車の寄贈を受け署に配置(更新)  
 平成 8年 1月 三菱KC-FE538B改型消防車を購入、署に配置(更新)  
 平成 8年 3月 消防緊急通信指令施設 I 型設置  
 平成 8年 8月 トヨタKC-BU212改型資機材搬送車を購入、署に配置(更新)  
 平成 8年10月 愛知県防災ヘリコプター応援協定を締結  
 平成 9年 4月 職員定数条例の改正により、消防本部及び消防署の職員定数73名とする。

平成10年 3月 トヨタKC-HZJ75改型消防車を購入、蛭間分団に配置(更新)  
愛知県共済生活協同組合より、トヨタE-AT211型広報車の寄贈を受け署に配置

平成10年 7月 トヨタGB-YY101型資機材搬送車を購入、署に配置

平成10年 8月 トヨタKC-BU212改型資機材搬送車に2.9t4段クレーンを架装、署に配置(改造)

平成11年 3月 トヨタKC-HZJ75改型消防車を購入、神島田分団に配置(更新)

平成12年 3月 トヨタKG-HZJ79型消防車を購入、北分団に配置(更新)

平成13年 3月 ニッサンGE-FLGE50型高規格救急車を購入、署に配置

平成13年12月 神守分団車庫(詰め所)竣工(神守町)

平成14年 3月 ヒノKK-XZU331M型消防車を購入、神守分団に配置(更新)

平成14年 4月 行政機構の再編により予防・防災課の新設

平成15年 2月 高台寺分団車庫(詰め所)竣工(高台寺町)

平成15年10月 行政機構の再編により市長部局に防災対策室を新設し、予防・防災課と総務課を統合し総務課となる。

平成15年12月 トヨタTC-VCH38S高規格救急車を購入、署に配置

平成16年 3月 西分団車庫(詰め所)竣工(馬場町)  
ヒノKK-XZU301E型消防車を購入、西分団に配置(更新)

平成16年10月 ヒノPD-XZU304E型消防車を購入、東分団に配置(更新)

平成17年 1月 イスズPJ-FTS34H4型災害対応救助工作車Ⅱ型を購入、署に配置(更新)

平成17年 3月 ヒノPK-FW2PTWA型災害対応40m級梯子車を購入、署に配置(更新)

平成17年 6月 危険物安全協会よりマツダDBA-DY3W型査察車の寄贈を受け署に配置

平成17年 8月 宇佐美鋳油株よりイスズPA-NPR81R型資機材搬送車の寄贈を受け署に配置(更新)

平成17年10月 女性操法大会出場(横浜市)

平成18年 3月 ヒノPD-XZU304E型消防車を購入、南分団に配置(更新)

平成18年11月 トヨタCBF-TRH226K型指揮車を購入、署に配置(更新)

平成19年 1月 株宇佐美鋳油よりトヨタDBA-ANH10W型連絡車の寄贈を受け署に配置

平成19年 2月 ニッサンTC-FPWGE50改型高規格救急車を購入、署に配置(更新)

平成19年 3月 ヒノADG-GD7JGWA改型A1級1,500リットル水槽付消防車を購入、署に配置(更新)

平成19年 5月 女性部設置

平成19年12月 ヒノBDG-XZU334M型消防車を購入、署に配置(更新)

平成21年 2月 (財)日本消防協会より三菱CBA-V93W型広報車の寄贈を受け署に配置(更新)

平成22年 1月 ヒノBDG-XZU304E型消防車を購入、高台寺分団に配置(更新)

平成22年 2月 愛知県共済生活協同組合より、トヨタDBA-ZGM10型広報車の寄贈を受け署に配置

平成22年 3月 トヨタCBF-TRH226S型高規格救急車を購入、署に配置(更新)

平成22年12月 ヒノウ-FF3HKAA改型15m級屈折梯子車を廃止(更新なし)

平成23年12月 ヒノSKG-XZU640M型消防ポンプ自動車を購入、署に配置(更新)

平成24年 1月 ヒノSDG-GX7JGAA改型災害対応特殊水槽付消防ポンプ自動車を購入、署に配置(更新)

平成25年 3月 日産CBF-TPWG50型高規格救急車を購入、署に配置(更新)

平成25年 3月 海部地方消防通信指令事務協議会を設置

平成25年 4月 海部地方消防指令センターを弥富市役所十四山支所内にて共同運用開始  
平成25年12月 全日本消防人共済会還元事業より、ダイハツEBD-S331型広報車の寄贈を受け署に配置(配置は平成26年2月)

平成25年12月 トヨタE-AT211型広報車を廃止

平成26年 2月 ヒノTKG-XZU640M消防車両を購入、蛭間分団に配置(更新)

平成27年 2月 ヒノTKG-XZU600E消防車両を購入、神島田分団に配置(更新)

平成27年 3月 電波法の改正により、消防救急デジタル無線システム運用開始

平成27年 3月 職員定数条例の改正により、消防本部及び消防署の職員定数88名とする。

平成27年 4月 行政機構の編成により、予防課を新設

平成27年 6月 津島市危険物安全協会より、ダイハツS321V-ZQGF3型連絡車の寄贈を受け署に配置

平成27年 7月 消防庁舎耐震改修工事着工

平成28年 1月 ニッサンCBF-FPWGE50改型高規格救急車を購入、署に配置(更新)

平成28年 3月 消防庁舎耐震改修工事竣工

平成29年 1月 北分団車庫(詰め所)竣工(昭和町4丁目に移転)

令和 元年 6月 (株)ユタカ電子よりヒノ2RG-XZU712M型資機材搬送車の寄贈を受け署に配置

令和 元年12月 ヒノ2RG-XZU600E消防車両を購入、北分団に配置(更新)

令和 2年 4月 (株)宇佐美鋳油よりトヨタ3DA-GDH303W型連絡車の寄贈を受け署に配置

令和 3年 2月 ニッサンCBF-CS8E26改型高規格救急車を購入、署に配置(更新)

令和 5年 1月 (株)宇佐美鋳油よりトヨタ3BF-TRH226S高規格救急車の寄贈を受け署に配置

令和 5年 3月 愛知県共済生活協同組合よりトヨタ6AE-NHP160V査察車の寄贈を受け署に配置

令和 5年 4月 ヒノ2KG-GX2ABA救助工作車Ⅱ型を購入、署に配置(更新)

令和 5年 4月 消防本部、署1、消防職員78名(うち再任用2名)、消防団1、分団8  
消防団員215名、消防ポンプ車12台、40m級梯子車1台、指揮車1台、救助工作車1台、救急車3台、査察車1台、資機材搬送車3台、広報車3台、連絡車2台、デジタル消防専用無線電話(基地局1、可搬型移動局2、車載移動局16、携帯移動局10)の消防勢力を持って市の防災にあたっている。



## 歴代消防長氏名

代	氏名	在職期間
初代	山本 三千雄	S. 25. 2. 23 ~ S. 25. 8. 16
2代	平野 幸右エ門	S. 25. 8. 17 ~ S. 26. 4. 4
3代	横井 兵一	S. 26. 4. 27 ~ S. 30. 4. 14
4代	竹内 節雄	S. 30. 9. 1 ~ S. 34. 3. 8
5代	大橋 増太郎	S. 34. 6. 4 ~ S. 37. 11. 4
6代	平野 岬	S. 37. 11. 17 ~ S. 41. 4. 30
7代	佐藤 忍	S. 41. 5. 1 ~ S. 46. 5. 31
8代	吉田 正信	S. 46. 6. 1 ~ S. 49. 1. 3
9代	水越 伊平	S. 49. 1. 4 ~ S. 56. 3. 31
10代	山本 進平	S. 56. 4. 1 ~ S. 59. 3. 31
11代	恒川 貞治	S. 59. 4. 1 ~ S. 60. 10. 31
12代	城 雅美	S. 60. 11. 1 ~ S. 61. 3. 31
13代	山本 信彦	S. 61. 4. 1 ~ S. 61. 7. 31
14代	若山 智計	S. 61. 8. 1 ~ H. 3. 3. 31
15代	梶村 秀夫	H. 3. 4. 1 ~ H. 5. 3. 31
16代	林 昌雄	H. 5. 4. 1 ~ H. 9. 3. 31
17代	岩田 忠夫	H. 9. 4. 1 ~ H. 12. 3. 31
18代	八木 實	H. 12. 4. 1 ~ H. 14. 3. 31
19代	梶村 君男	H. 14. 4. 1 ~ H. 15. 3. 31
20代	神田 栄治	H. 15. 4. 1 ~ H. 15. 9. 30
21代	小山 忠良	H. 15. 10. 1 ~ H. 18. 3. 31
22代	大和 厚	H. 18. 4. 1 ~ H. 19. 3. 31
23代	稲垣 憲一	H. 19. 4. 1 ~ H. 23. 3. 31
24代	近藤 秀隆	H. 23. 4. 1 ~ H. 27. 3. 31
25代	安川 和宏	H. 27. 4. 1 ~ R. 4. 3. 31
26代	後藤 優志	R. 4. 4. 1 ~ 現在

# 現有消防力配分表

令和5年4月1日現在

面積 (km <sup>2</sup> )	人口 (人)	世帯数 (世帯)
25.09	60,335	27,127

## 消防本部・署

消防吏員 1 人当り			消防車 1 台当り		
面積 (km <sup>2</sup> )	人口 (人)	世帯数 (世帯)	面積 (km <sup>2</sup> )	人口 (人)	世帯数 (世帯)
0.32	773.53	347.78	6.27	15,083.75	6,781.75
消防吏員数		78人	消防ポンプ自動車現有数		4台

## 消防団

消防団員 1 人当り			消防車 1 台当り		
面積	人口	世帯数	面積	人口	世帯数
0.12	280.63	126.17	3.14	7,541.88	3,390.88
消防団員数		215人	消防ポンプ自動車現有数		8台

## 基準消防力と現有消防力の比較表

車両・隊員数

令和4年度調査

		算定台数 (台)	算定台数 に対する 算定人員 (人)	整備台数 (台)	整備台数 に対する 算定人員 (人)	現員数 (人)	
消防 隊員	指 揮 車	1	9	1	9		
	消 防 ポ ン プ 自 動 車	4	57	4	57		
	は し ご 自 動 車	1	0	1	0		
	化 学 自 動 車	1	0	※ 1	0		
	消 防 艇	0	0	0	0		
	三 点 セ ッ ト	0	0	0	0		
	特 殊 車 等	6	0	6	0		
救急 隊員	救 急 自 動 車	3	29	3	29		
救助 隊員	救 助 工 作 車	1	16	1	16		
	救助工作車の代替えとする消防用自動車等	0	0	0	0		
小 計		17	111	16	111		52

※ 消防ポンプ自動車に含まれるタンク車が化学自動車の代用となるため1台を計上

予防・通信要員数

	算定人員(人)	現員数 (人)
予 防 要 員	10	9
通 信 員	4	4
小 計	14	13

その他の要員数

	算定人員(人)	現員数 (人)
救 助 の た め の 要 員 数	0	0
庶 務 の 処 理 等 の 人 員	14	11
小 計	14	11

※消防施設整備計画実態調査表(令和4年4月1日現在)

総括表、第14表、第15表、第16表より抜粋  
(整備台数は実車両数と異なります)

※現員数は令和5年4月現在となります(出向者2名を除く)

## 消防相互応援協定等の締結状況表

発足年月日	名 称	相 手 先
昭和58年 2月	愛知県下高速道路における 消防相互応援協定	名古屋市消防局 豊橋市消防本部 一宮市消防本部 岡崎市消防本部 豊川市消防本部 春日井市消防本部 衣浦東部広域連合消防局 豊田市消防本部 瀬戸市消防本部 稲沢市消防本部 小牧市消防本部 新城市消防本部 東海市消防本部 大府市消防本部 尾張旭市消防本部 岩倉市消防本部 西春日井広域事務組合消防本部 蟹江町消防本部 海部東部消防組合消防本部 尾三消防組合消防本部 海部南部消防組合消防本部 愛西市消防本部
平成 2年 4月	愛知県下広域消防相互応援 協定	愛知県下市町村
平成 8年10月	愛知県下防災ヘリコプター 応援協定	愛知県
平成16年 4月	緊急消防援助隊	全国
平成23年 4月	海部地方消防相互応援協定	愛西市 弥富市 あま市 大治町 蟹江町 飛島村 海部東部消防組合消防本部 海部南部消防組合消防本部